

ときを越え
受け継がれるもの

人首文庫(佐伯邸)



2

江刺区米里地区の中心である人首町。

県道8号から人首城跡へと続く坂を上ると、左手に武家屋敷を思わせる白壁の門が現れる。人首城の城主沼部氏の家老を務めた佐伯氏の屋敷だ。敷地内の蔵を利用した私設文学資料館「人首文庫」は、佐伯家出身の詩人・佐伯郁郎(1901〜92年)が残した約5千点もの資料を保管・展示している。



1

1佐伯邸の正門は人首城の大手門を移築したもの 2館主夫妻の手で往時の景観が保たれている屋敷と庭園。4月下旬には樹齢200年を超える桜が来客を迎える 34江戸時代の蔵を改修した人首文庫。佐伯郁郎の蔵書のほか、高村光太郎や井上靖など多数の作家・詩人の手紙も保管され、当時の親交がうかがえる



3



4



佐伯研二館主が、大叔父にあたる郁郎から蔵書の保管を依頼されたのは昭和56年のこと。以後、佐伯館主は資料を整理しながら郁郎の足跡をたどり、平成16年に人首文庫の開設にこぎ着けた。そこには「蔵書を地域文化の発展に役立てたい」という郁郎と佐伯館主に共通した思いがあった。

貴重な文学資料や歴史ある建造物を今に伝える人首文庫と佐伯邸。ここには、ゆったりとした時が流れ、日頃の喧騒を忘れさせてくれる空間がある。

広告

